

日本児童教育専門学校 学校関係者評価委員会 開催記録

1.日時

第1回 平成29年2月24日(金) 午後19時から午後19時30分まで

第2回 平成29年3月24日(金) 午後19時から午後19時30分まで

2.委員等氏名及び略歴

片岡輝	東京家政大学名誉教授・社会福祉法人緑伸会理事長
新木真理子	NPO法人ヒューマンサポート ひまわり ひまわり保育園 施設長
須江宏行	公益財団法人生長の家社会事業団生長の家神の国寮 自立支援コーディネーター
今泉良一	学校法人双葉学園 認定こども園ふたばランド 教諭
石川智幸	社会福祉法人どろんこ会 グループ人事採用部
<陪席>	
阿久津 撰	日本児童教育専門学校 副校長・教務部長・児童教育科 学科長
中西和子	日本児童教育専門学校 総合こども学科 学科長
菊池一英	日本児童教育専門学校 キャリアデザインセンター センター長
安部高太郎	日本児童教育専門学校 総合こども学科 専任教員
高井均	日本児童教育専門学校 事務次長
谷村明門	日本児童教育専門学校 事務局

◆議事要約◆

*本校は3学科とも保育系学科のため、当日は学校関係者評価委員会と教育課程編成委員会を同時に進行した。内容は学校関係者評価委員会に該当部分の抜粋とする。

<初めに副校長阿久津より、保育実習について、「基準3 教育活動ー11資格・免許の取得の指導体制」を説明し、その後、従来の社会福祉法人中心から、企業型保育所へも多くの実習生を送ったと共有があった。委員の意見を参考に、今後の企業連携の方向性を検討することとなった>

「実習相談室長より報告」

- ・現在、全国保育士養成協議会では、保育士養成の評価内容を変えていこうという意見がある。養成施設がどのように対応していくかが課題となってくる。
- ・新しい実習指導要綱ができ、実習指導に送り出す教員、実習事務担当の認可を保養協がする、実習現場の受け入れ担当者も研修を受けるといった話がある。
学校の信頼度を増すには受ける方がよいと思われる。
- ・高学歴や保育補助の経験がある学生も増えており、学校も対応も変わらざる負えないと

ころもある。

- ・園長や主任が多忙で、実習指導の前に十分に話を聞けないケースもある。
- ・大きな組織になると、園毎で方針に違いがあることもある。また、本部機能と園との認識にズレがあるケースもある。
- ・ただ、あくまでも一部であって、非常に細かく指導をいただくことが多かった。

「実習指導の教員より」

- ・大きな企業であったかが、公立出身の慣れた園長もいて、混乱もなく実習を終えた。
 - ・「その企業ならではの特徴が強い」場合、一般的な保育園を体験する機会も必要になるのでは？
- などの意見があった。

「受け入れ園の担当者より」

- ・企業と社会福祉法人に大きな違いはないと思っている。むしろ経営者の考え方によるころが多いのではないか？
- ・個々の園の方針をしっかりと見ていくことが大切。
- ・園長が管理者であっても、一方で現場に保育者として入っていると、頭の切り替えがむずかしいのかもしれない。
- ・階層型研修で「園長としての仕事を定義する」ことで意識を統一する。
- ・自分の個性と合わない園に実習に行った場合、個性が生かされず、評価も上がらないという問題もある。より様々な園に行けるとよいのでは？
- ・企業・社福に限らず、受け入れ側は、時期によっては大変な時期もあり、学生が不利益を受けることは避けたいと思う。
- ・保育士が増えれば、自分たちも楽になる、という認識を持てば、育てる意識もできる。
- ・実習のスキルだけを学ぶだけでなく、自分が進もうと思っている道が、間違いないか確認して来なさい、という指導がよいと思う。厳しさも前向きにとらえられるように。
- ・元々は実習の受け入れは、あまり積極的ではなかったが、保育士の教育に貢献することが組織に必要という認識が変わった。どんな体制で、どんな教育をしていくのかを、組織全体で考え中。
- ・現場での問題だけでなく、学生本人の、「実習に行つて何を学びたいか」という気持ちが大切に、前向きになるよう指導していくことが重要である。

以上、今回は養成施設、受け入れ先の事情、考え方を共有した。次回はテーマをより深め両者にとって、よりよい実習指導について語ることとなった。

以上

